

奄美群島水産青年協議会活動指導

大島支庁林務水産課

【背景・目的】

奄美群島水産青年協議会は、会員間の親睦や知識・技術の研鑽、地域の活性化を図るため、平成6年に群島内の漁協青壮年部によって結成された。会員は平成9年に153名に達したものの年齢制限による卒業脱会や新規加入者の不足により平成24年度末には66名にまで減少した。後継者の確保育成は普及業務の根幹に関わる問題であることから、協議会結成20年目という節目に再興の礎を築くべく、諸般の活動を指導した。

【普及の内容・特徴】

主な活動は、魚食普及、藻場造成、会員交流であるが、今年度は魚食普及に重点に置くこととした。（実績については以下の表のとおり。）

月日	活動内容	備考
H26. 4. 2	第1回 役員会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H26. 4. 12	第20回新鮮なお魚まつり準備	場所：奄美市（大熊漁港）
H26. 4. 13	第20回新鮮なお魚まつり、通常総会、20周年記念式典	お魚まつり来場者：約1,200名
H26. 6. 21	第2回 役員会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H26. 7. 27	第20回親睦スポーツ大会	種目：ソフトボール
H26. 9. 13	第3回 役員会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H26. 10. 31	第24回奄美群島漁業振興大会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H26. 11. 8	第4回 役員会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H26. 11. 15	第5回県漁青連役員会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H26. 11. 22	児童養護施設「白百合の寮」魚食普及活動	児童生徒：約60名
H27. 1. 10	第5回 役員会	場所：奄美市（名瀬漁協）
H27. 1. 16	県漁業振興大会・実績発表大会	場所：鹿児島市（水産会館）
H27. 2. 1	大棚小学校食育ボランティア活動	場所：大和村
H27. 2. 6～H27. 3. 31	藻場造成活動	場所：名瀬港（計5回）
H27. 3. 20	県漁青連第31回通常総会及び記念大会	場所：鹿児島市（水産会館）

諸活動の計画作りにおいて、助言等を行った。

魚食普及では、お魚まつり、児童擁護施設や小学校での捌き方教室に注力した。アトラクションの充実により参加者の興味関心を引こうと一本釣り体験用素材を作製し、反応を確かめながら改良に努めた。

藻場造成では、種の供給基地づくりを推進した。魚類による食害を防ぐため網で覆った鉄筋カゴに母藻の付いたブロックと採苗用のブロック9個を1セットとして佐大熊沖に2セット投入し追跡調査を行った。また、沿岸漁業者の重要な収入源となっているイセエビ類幼生の着底向上を図ろうと市販の人工海藻（イセエビ幼生コレクター）を1基、山羊島周辺に設置した。

【成果・活用】

魚食普及活動については、地元紙等に取り上げられたことで、会員の活動意欲が高まった。参加者の評価も高く、今後は他地域へも活動を拡げていきたい。

藻場造成では、H24年度およびH25年度設置分の追跡調査によりホンダワラ種苗の安定生産が可能と判断した。今年度作製した母藻ブロックの種の供給源として基地拡大を目指したい。コレクターは次年度9～10月にかけて追跡調査を行う予定である。

その他、諸般の事情で組織の形骸化していた名瀬漁協青年部が会員を増やす形（3→15名）で再発足した。今後は現在休部中の2組織についても再発足を促し青年協議会の活性化につなげる予定である。



新鮮なお魚まつり（会長あいさつ）



魚食普及（大棚小：捌き体験）



魚食普及（体験道具作成）



藻場造成（H25年度設置分）



同左（来場者の様子）



同左（大棚小：一本釣り体験）



藻場造成（ブロック設置）



人工海藻設置（イセエビ幼生コレクター）